

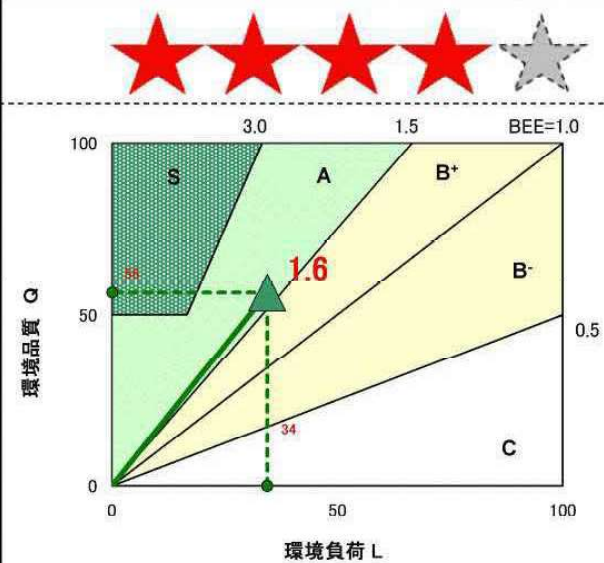
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)河原町ビルディング			階数	地上5階
建設地	熊本県熊本市中央区古川町28番			構造	S造
用途地域等	商業			平均居住人員	22 人
省エネ・地域区分	7地域			年間使用時間	2,850 時間/年
建物用途	事務所			評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年2月 予定			評価の実施日	2024年11月1日
敷地面積	627 m ²			作成者	株式会社セルアーキテクト 山室
建築面積	569 m ²			確認日	2024年12月1日
延床面積	2,080 m ²			確認者	株式会社セルアーキテクト 山室



2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.6

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

76%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

重点事項総合評価				評価点
				85

評価点

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全
- 【重点事項4】 循環型社会の実現

91.5

75.0

85.0

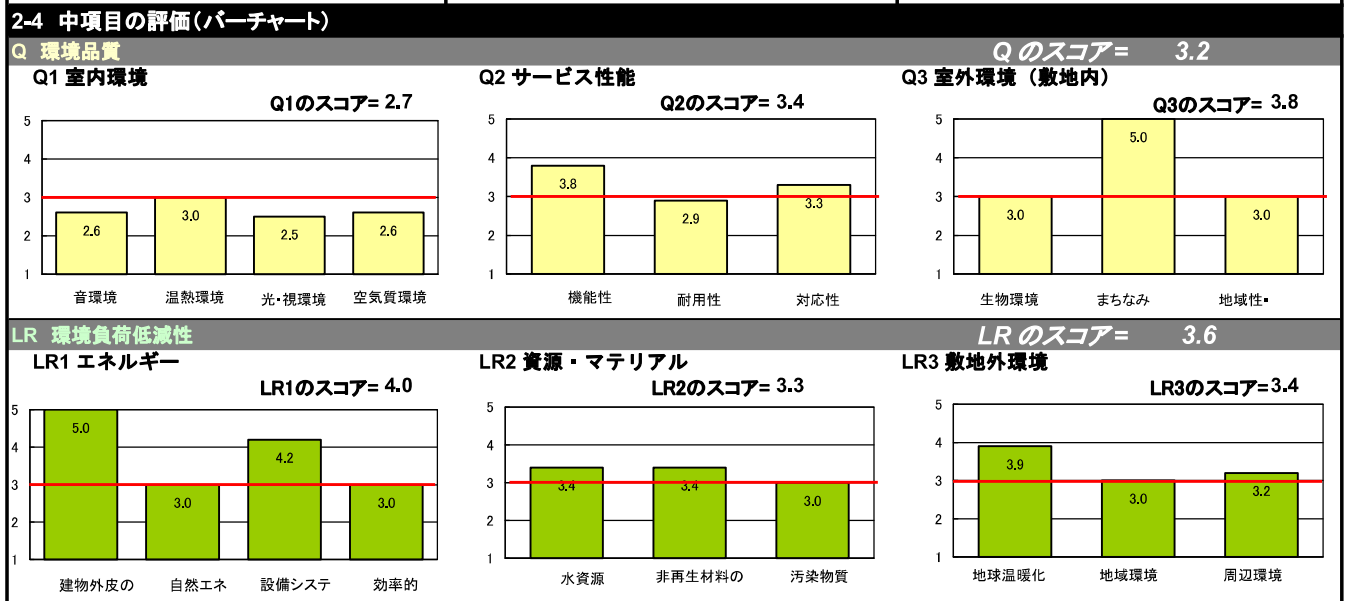
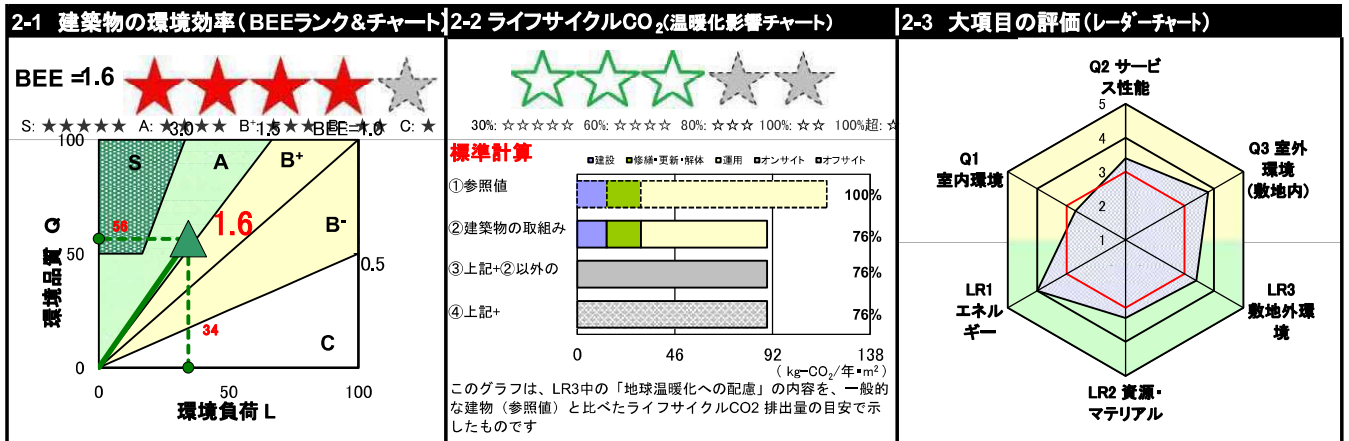
81.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)河原町ビルディング			階数	地上5階
建設地	熊本県熊本市中央区古川町28番			構造	S造
用途地域等	商業			平均居住人員	22 人
省エネ・地域区分	7地域			年間使用時間	2,850 時間/年(想定値)
建物用途	事務所			評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年2月	予定		評価の実施日	2024年11月1日
敷地面積	627 m ²			作成者	株式会社セルアーキテクト 山室
建築面積	569 m ²			確認日	2024年12月1日
延床面積	2,080 m ²			確認者	株式会社セルアーキテクト 山室



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境					0.40		-	2.7
1 音環境				2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音				2.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能				1.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能				3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.5	0.25	-	-	2.5
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-	
1 昼光率				1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				1.0	0.30	-	-	
1 昼光制御				1.0	1.00	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		1作業単位での点灯、消灯可		5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				2.6	0.25	-	-	2.6
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質				3.0	1.00	-	-	
4.2 換気				2.3	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				2.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				1.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.8	0.40	-	-	3.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		執務スペース19.9㎡/人		5.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		インナー-BL 5.6 > 1% 自販販売機		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		機能の明確化 照明計画と内装計画の一体化 BIM		4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		①②③防汚性の高い仕上げ(内壁、床面、外壁)⑥同床材⑦防汚性の高い建材⑨害鳥対策 ⑩外部金属防錆対策		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃控室、清掃用具、管理倉庫、清掃用流しの設置		4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				1.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種以上B使用 E不使用		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.87m	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	比率:0.26	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
①調和②植栽による景観周辺景観との調和⑤沿線からの景観⑥熊本市周辺地域沿線の景観届出							
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
BPI _m =0.78							
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			4.2	0.50	-	-	4.2
[BEI][BEI _m]= 0.68							
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水コマ、節水型機器							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
-							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			4.0	0.20	-	-	
再生クラッシュラン・高炉セメントB種							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
躯体と仕上げ材が容易に分別可能:LGS+PB 再利用可能・OAフロア							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			3.9	0.33	-	-	3.9
ライフサイクルCO2排出率:76%							
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	I ①自転車置場の確保 II ①駐車スペース・駐車施設の確保②荷捌き用車両の駐車スペース③駐車場出入口の配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン、広告物照明の取扱いの過半以上を満たして	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	(仮称)河原町ビルディング	

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		85
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				91.5	0.40	36.60
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85	0.20	17.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	5.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				81	0.20	16.20
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

(仮称)河原町ビルディング

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	(建物・敷地全体の環境に配慮したことに関するコンセプト) 交通量も多い道路に面するため開口部を少なく設計することで、遮音対策に配慮し快適性を重視した設計とした。	
Q1 室内環境	(遮音、温度、湿度、採光、換気など室内環境に配慮した事項) 執務空間には複数の窓を配置し、通風・採光の確保に努め、快適な住空間を目標とした。使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する。	
Q2 サービス性能	(内外装や建物の維持管理などに配慮した事項) 将来の更新を想定し、壁面はプラスターボード現し(グレイの表面)を採用。階高を十分に確保し、設備機器等の更新に備える。	
Q3 室外環境 (敷地内)	(緑地、景観、機器の排熱などに配慮した事項) 外壁材(押出成形セメント版)の彩度を落したデザインとし、周囲への太陽光の反射やグレアの軽減を図る。	
LR1 エネルギー	(太陽光、太陽熱、高効率機器の採用などに配慮した事項) 日射遮蔽製を図り、断熱性能を高めるよう、テラス(ベランダ)奥行を広く計画した。	
LR2 資源・マテリアル	(リサイクル材の使用、雨水の利用などに配慮した事項) 限りある資源を有効に利用する。ハロン消化剤を使用しない。	
LR3 敷地外環境	(建物による周辺地域への影響に配慮した事項) 1階駐車場の騒音など、隣地に対する影響とゴミの散乱を防ぐよう扉付の既製品を採用した。	
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。</p> <p>※ほか、敷地内の他の建築物との関係性(例:既存の〇〇棟とは完全に別棟扱い)や各種諸元、CASBEE評価に際して『仮想敷地』を設定している場合の面積(例:仮想敷地として……㎡)など、明記しておきたい情報があれば、必要に応じてこの欄を活用してください。</p>	